

6月の一斉登校指導 マナーアップ運動を実施

生活委員会副委員長 1年2組 森本 祐樹

6月15日(水)7:50から、PTA生活委員会の活動の一環として、学校周辺の交差点と本校駐車場にて、一斉登校指導を行いました。当日は雨という事もあって自転車での登校は少なく、車での送迎が多かったため、駐車場には沢山の車が列を作っていました。あいにくの天気でしたが、生徒の皆さんからは大きな声で挨拶があり、とても気持ちのいい朝になりました。生徒の皆さんには、引き続き交通社会の一員としての自覚を持って、交通ルールを守りながら、時間に余裕をもって登校してもらいたいと思います。



校長挨拶

全国高等学校PTA連合大会
(石川大会)に参加して

校長 渡邊 圭一郎



第71回全国高等学校PTA連合会大会(石川大会)が、『輝く未来への礎～親から始める新世代の教育～』のテーマの下、8月25日(木)から26日(金)の日程で開催されました。本校からは、五味会長様と渡邊の2名で参加させていただきました。今年は記録的な猛暑であり、暑さが懸念されましたが大会当日は曇りで気温も高くならず(夕立には遭いましたが)、活気あふれる活気に満ちた大会となりました。

開会式は、石川大会実行委員長の栗田会長の開会の挨拶で始まり、山田全国高P連会長の式辞へと続きました。コロナ禍により、一昨年度は中止、昨年度はオンライン開催を余儀なくされたため、3年ぶりの現地開催に至るまでの想いと苦労が伝わる挨拶でした。

分科会は、「新時代の家庭教育～今、伸ばすべき本当に必要な力～」をテーマとした第1分科会に参加しました。基調講演Ⅰでは慶應義塾大学中室 敦子教授が「教育に科学的根拠を」といった演題で講演を行い、経済学から見た教育についての話がありました。体験のみではなく統計的な見地から科学的根拠に基づいた教育を行うべきであるといった趣旨で、統計的に見ると「鶏口となるも牛後となるなかれ」と言われるように高いレベルの集団の底辺にいるよりも、次のレベルの集団のトップにいる方が良いとの話がありました。基調講演Ⅱでは花まる学習会代表高濱 正伸氏が『思春期の親だからできること』といった演題で講演を行い、現在も現場で活躍している視点から教育についての話がありました。“大人の一言が子供に自信を与える場合もあれば、コンプレックスを与える場合がある”“よかれと思って行うことが子供の自立を妨げる場合がある”など考えさせられる内容でした。

この大会への参加で、現代の教育界が抱える様々な問題の再認識と、生徒1人1人が自立できる教育の大切さを再確認すると共に、本校で実践されている生徒自身が目標を持ち主体的に取り組む『巨摩スタイル』の素晴らしさを改めて実感いたしました。また、分科会や県の懇親会等で、県内各高校のPTA会長様、校長と、親交を深めることもできました。学校の教職員と保護者は、よく「車の両輪」と言われ、特にPTA役員と管理職は、その両輪を繋ぐ車軸に例えられます。これからも、子供たちの成長のため、手と手を携え協力して活動していきたいと思っております。

今回は、大会に参加させて頂き本当にありがとうございました。皆様には、今後ともPTA活動への御理解と御協力を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

巨摩高PTAだより

KOMAstyle FOR PARENTS VOL.8

- 発行先…山梨県立巨摩高等学校
〒400-0306 山梨県南アルプス市小笠原1500-2
TEL.055-282-1163 FAX.055-282-1104
- 発行日…令和4年10月17日 ●編集…巨摩高校PTA広報委員会

巨摩高校のコト、もっと知りたくなったら、ホームページにアクセス!!

巨摩高校

検索

URL…<http://www.ko.kai.ed.jp/>
E-mail…info@ko.kai.ed.jp

PTA会長挨拶



家庭の役割の大切さ

PTA会長 3年2組 五味 孝彰

日頃より巨摩高校のPTA活動に御理解と御協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの猛威は今もなお続くものの、少しずつ以前の生活に戻りつつあります。今年は3年ぶりに全国高等学校PTA連合会の大会が石川県で開催されました。家庭教育の在り方、学校教育との連携とそのためのPTAの役割についての講演では、家庭での関わり的重要性を改めて感じたところです。

今年の4月より成人年齢が18歳に引き下げられ、高校ではほとんどの子供たちが在学中に成人を迎えることとなります。自分の意思で契約ができるようになるなか、物事を正しく認識してトラブルを回避するためには、子供たちの自立を促すことが必要となってきます。そのために家庭や社会全体が意識をもってそれぞれの役割を果たす必要があると思っております。なかでも家庭の役割はとても重要になってくると思っております。コロナ禍で以前より家庭で過ごす時間が増えた今こそ、家庭教育を見直す良い機会ではないでしょうか。

PTAでは、これからも子供たちが成長でき、また充実した高校生活を過ごすことができるように、保護者・学校・地域が連携して活動していきたいと思っております。引き続き皆様の御支援、御協力を宜しくお願い申し上げます。

編集後記

多くの方々の御支援によりまして、今年度の「巨摩高PTAだより Vol.8号」を無事、発行することができました。

今もなお、新型コロナウイルス感染症は終息の見通しがつかない状況で、高校では限られた行事、活動が続いてしまっています。そうした中、感染症対策を講じていただき、子供たちが一生懸命に学校行事や部活動に取り組む姿に接することができ、深い感銘を受けました。新型コロナウイルスの流行が落ち着き、充実した高校生活を過ごせる日常が1日でも早く来ることを切に願っております。

紙面作成にあたり、御協力いただいた全ての皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。今後とも本校のPTA活動に對しまして、御理解と御協力をお願い申し上げます。

広報委員会副委員長 2年4組 望月 綾子

News and Magazine of KOMA High School

KOMAstyle FOR PARENTS VOL.8

楽しみながら学ぶ、それが『巨摩スタイル』。

令和4年度の本県PTAの取り組みを
皆様にお伝えしていきます



陸上競技部の応援風景

子どもたちの成長をかみしめながら ともに夢を追い続けて...



野球部の応援風景

特集 Special edition

- 白嶺祭広報活動・PTAパン販売
- 夏の高校野球の応援
- PTA一斉登校指導(マナーアップ運動)
- PTA会長・校長挨拶

今年も大盛況!



白嶺祭(巨摩高校学園祭)2日目にPTAイベント支援委員会では、学校キャラクターの焼き印を押した「こまねきねこパン」を生徒の皆さん、先生方に販売しました。



チ

チ

子供たちの笑顔とひたむきな姿に触れて

イベント支援委員会委員長 3年5組 横内 広美

本年度のPTAイベント支援委員会の活動では、昨年に引き続き、白嶺祭2日目のパン販売を行いました。コロナ禍での実施となりましたが、先生方の創意工夫と委員の皆さんの協力のもと、感染対策を徹底しながら無事に販売することができました。パンは南アルプス市のベーカリー「ルーブル」様のご協力で、巨摩高校のマスコットキャラクターである「こまねきねこ」の焼き印を押したオリジナルの「こまねきねこパン」を、あんこ・チョコ・クリームチーズの3種類で作っていただき、500個限定で販売しました。生徒の皆さんが密にならないように事前に注文を取ったり、学年ごと時間を指定したりして販売を行いました。パンは生徒の皆さん、そして先生方にも好評

で、あっという間に完売しました。当日は準備から販売まで手際よく作業が進み、また委員さん同士のふれあいの場ともなり、私自身とても楽しい時間を過ごすことができました。生徒の皆さんで創り上げる学園祭は、自分自身が楽しむことはもちろんですが、友人・先輩・後輩・先生と、誰かに喜んでもらえるように試行錯誤して一生懸命に取り組んでいて、その姿はキラキラと輝き、学校生活を楽しんでいる様子が見え、成長が詰まっていたように思います。最後に、先生方・生徒の皆さん、コロナ禍で白嶺祭を実施していただきイベント支援委員会として活動に参加できたこと、また保護者として子供たちの頑張りに触れることができたことに感謝いたします。委員の皆さん、先生方、ルーブルさん、ご協力本当にありがとうございました。



昨年に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、広報委員会の活動は限られたものとなり、編集会議以外で委員会全体として実際に活動できたのは白嶺祭の2日間のみとなりました。

6月23日、24日に行われた白嶺祭は、「百年一剣」というテーマのもと、感染症対策に配慮しながら、厳粛の中にも盛大に行われました。広報委員としてカメラを構えるフレーム越しには、練習の成果をいかに発揮する生徒たちの姿、それを温かく見守る先生方の笑顔が広がり、観客席の生徒たちの拍手による声援には胸が熱くなりました。

本年度は初の試みとして、Teamsでの保護者向け配信も行われました。2日目のイベント支援委員会の皆さんのパン販売も盛況で、生徒や先生方のたくさんの笑顔写真を収めることができました。準備や運営等にご尽力いただきました先生方、委員の皆様、本当にありがとうございました。この困難な状況の中、私たちPTA役員一同は、保護者の皆様、そして先生方とともに、様々な不安を解消し、変化に対応しながら、これからも子供たちの挑戦を支援していきたいと思っております。

広報委員会委員長 3年1組 井上 啓恵

第104回 全国高校野球選手権山梨大会の応援より



今年は、保護者と三年生にとって初めての開会式が、山日YBS球場で行われました。試合2日目当日の天候は曇り、富士北麓球場にての第2試合となりました。

生徒の意気込み(キャプテン村松さんコメントより)は「凡事徹底」をテーマとして掲げ、守備では一つ一つのプレーを丁寧に行うことを心掛け、攻撃では積極的なバッティングと走塁で得点を積み重ねるスタイルに磨きをかけ、仲間と共に大好きな野球が思い切り出来ることに感謝し、「一戦必勝」の気持ちを忘れずに最後まで全力で戦いました。

保護者もまた、練習を重ねてきた子供たちのために一丸となって応援を展開しました。コロナ禍のため、声を出しての応援は出来ませんでしたが、今年は吹奏楽部の演奏、有志生徒の応援を受け、メガホンをカ一杯叩き、勝利を祈りながらの応援を展開しました。マネージャーもまた、ベンチ(記録係)と応援席から選手の一投一打に自分たちの夢を重ねながら、メガホンを叩いて懸命に応援を続けました。

試合は1点を追う八回、1死満塁で藤田選手の1塁ゴロの間に齊藤選手が生還して同点となりましたが、延長十回にサヨナラ

負けとなり、選手たちの夏は終わりました。新型コロナウイルス感染症の影響により声出しの制限はありましたが、夏の高校野球という大事な試合で、子供たちと保護者が一体となることができました。選手の皆さんは感動させてくれる試合をありがとうございました。そして、大会を運営して頂いた役員の皆様、関係の先生、全校生徒の皆様には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

広報委員・野球部保護者 3年2組 東條 小百合

